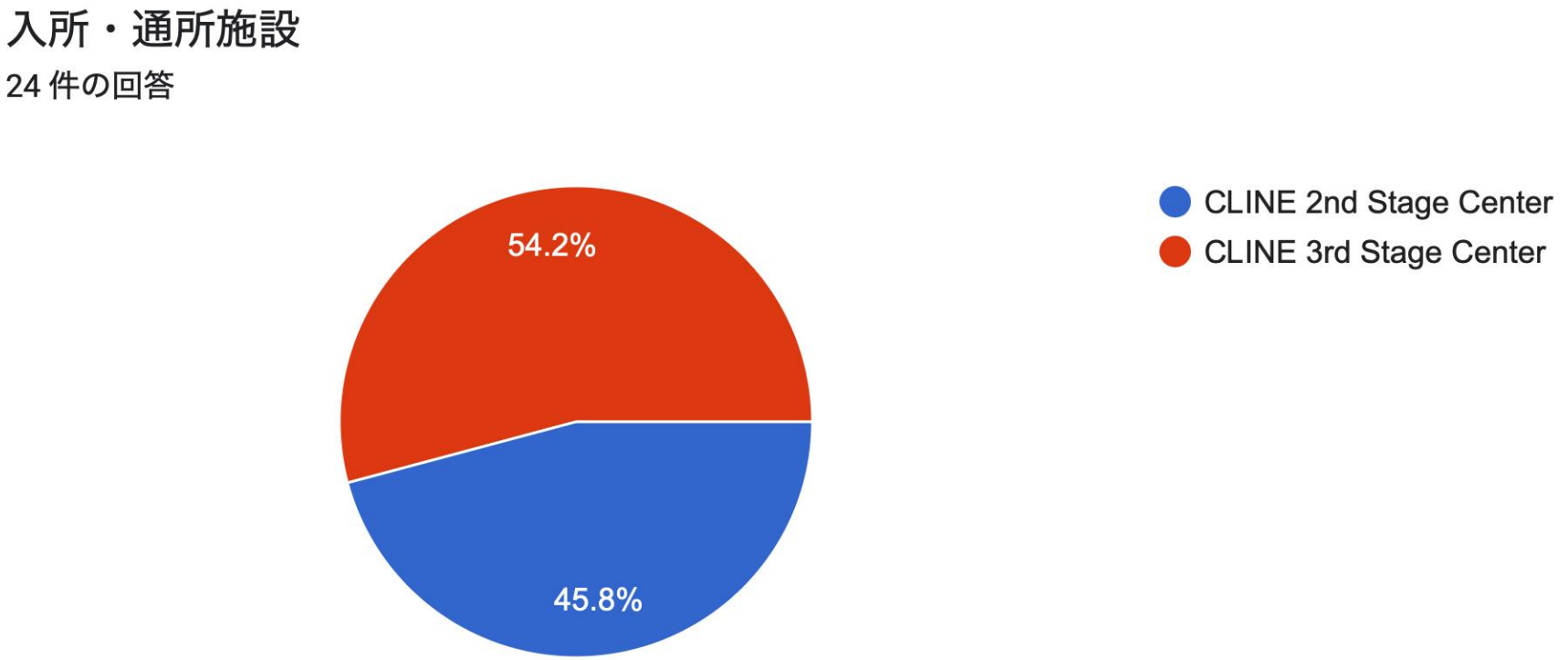
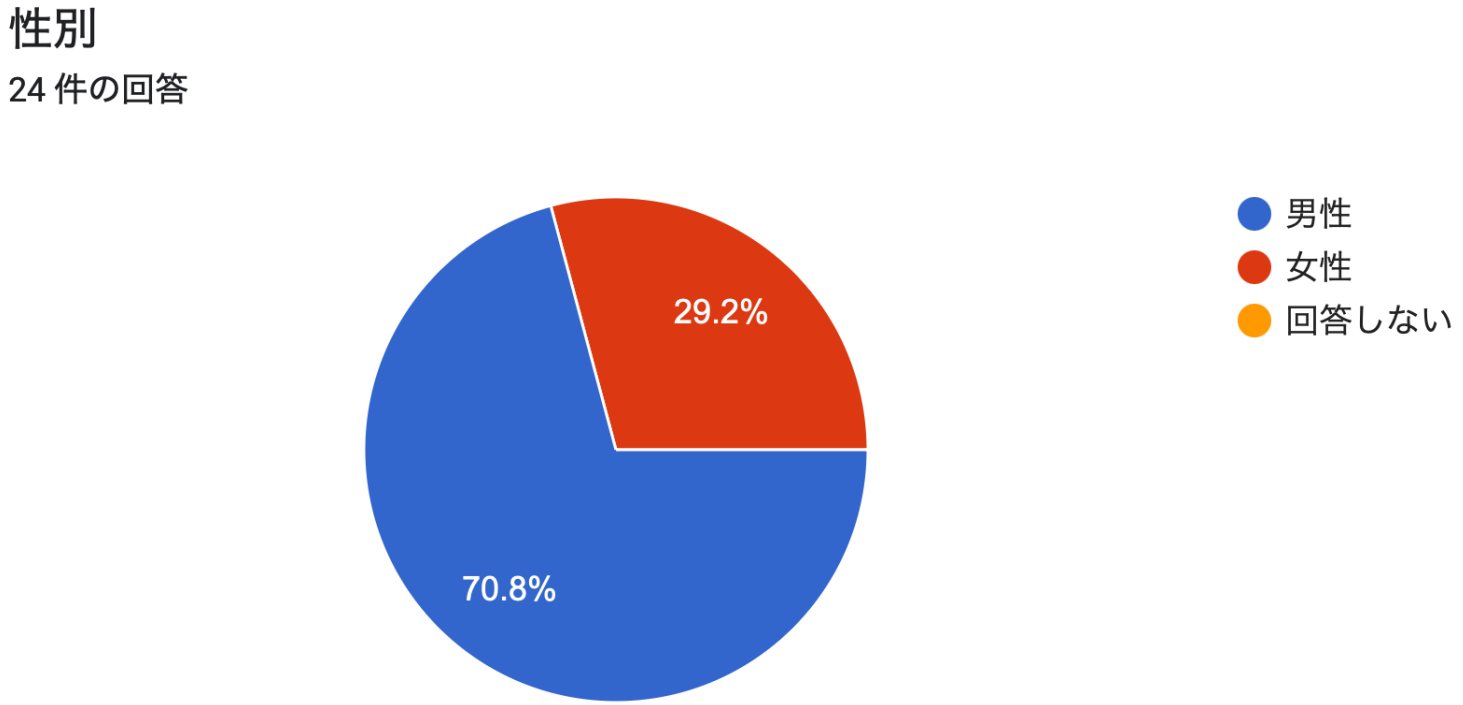
栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM（社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳

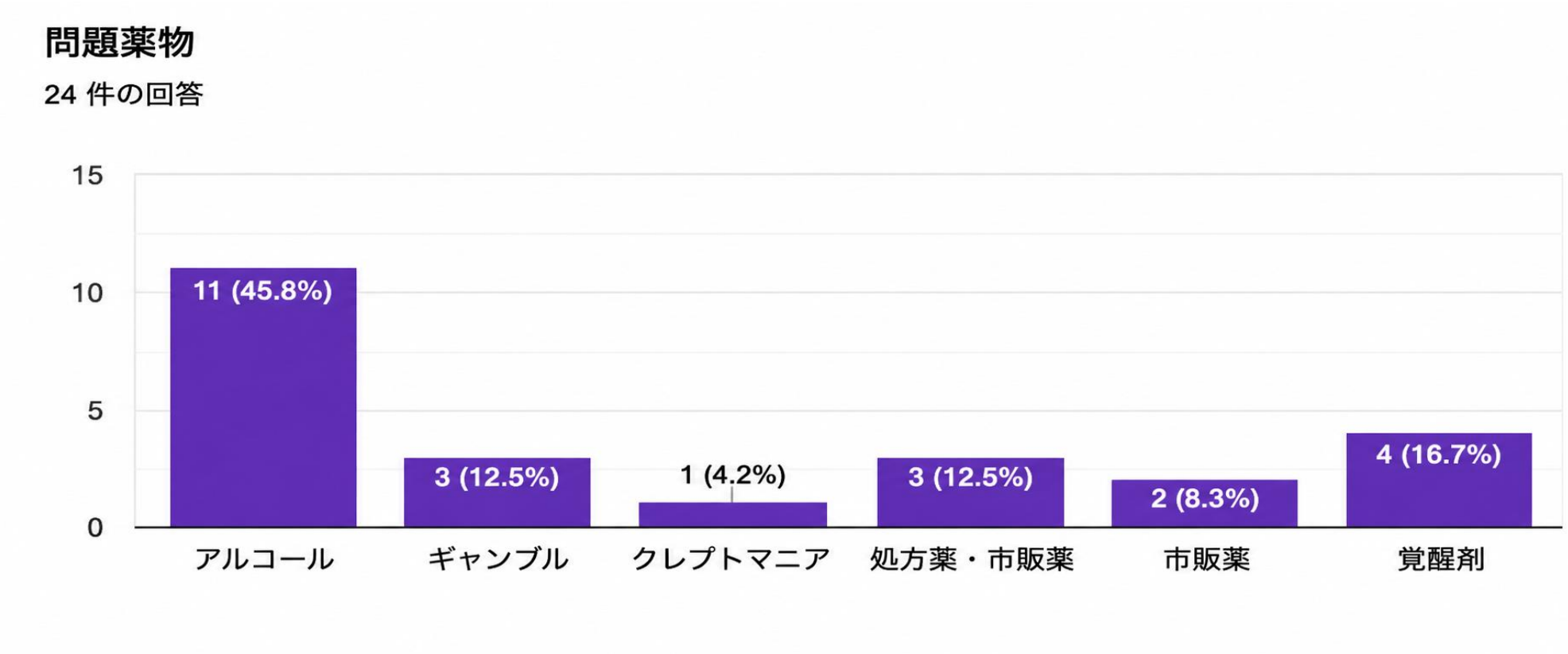


回答者24名の内訳は、2nd Stage Centerが45.8%、3rd Stage Centerが54.2%であった。
両施設から概ね均等に回答が得られており、3rd Stage Centerの利用者がわずかに多い構成となっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳

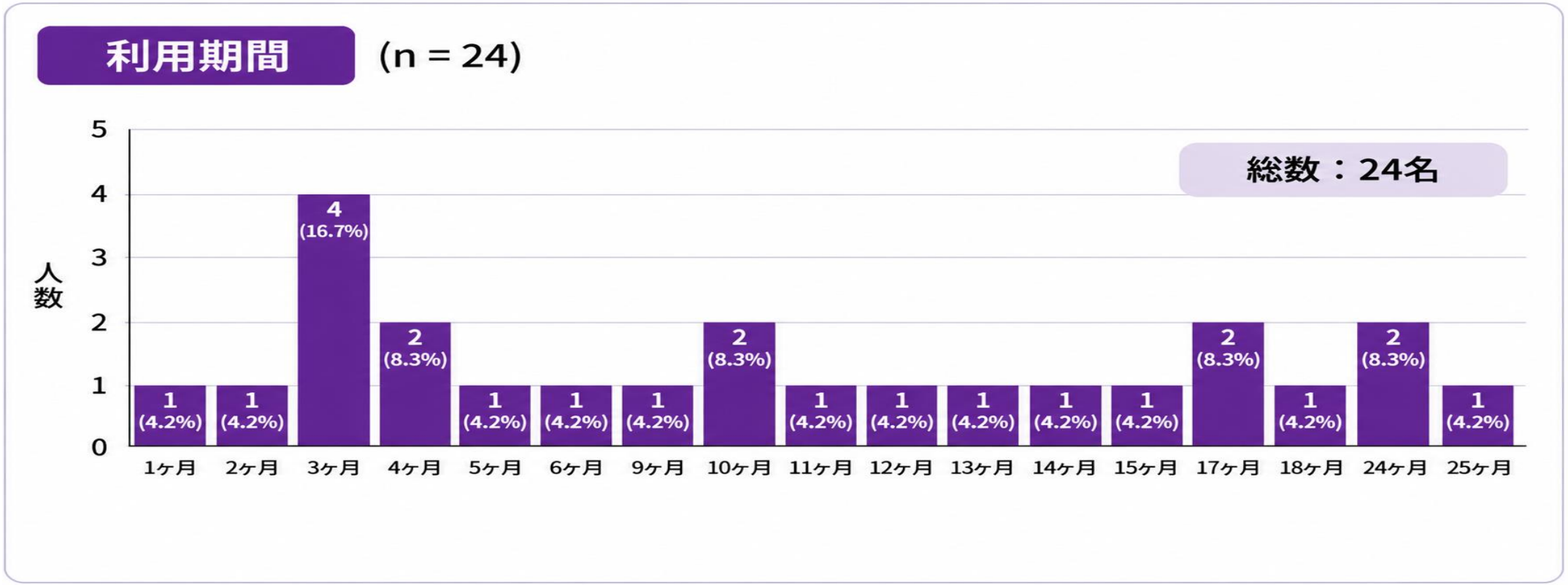


栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳



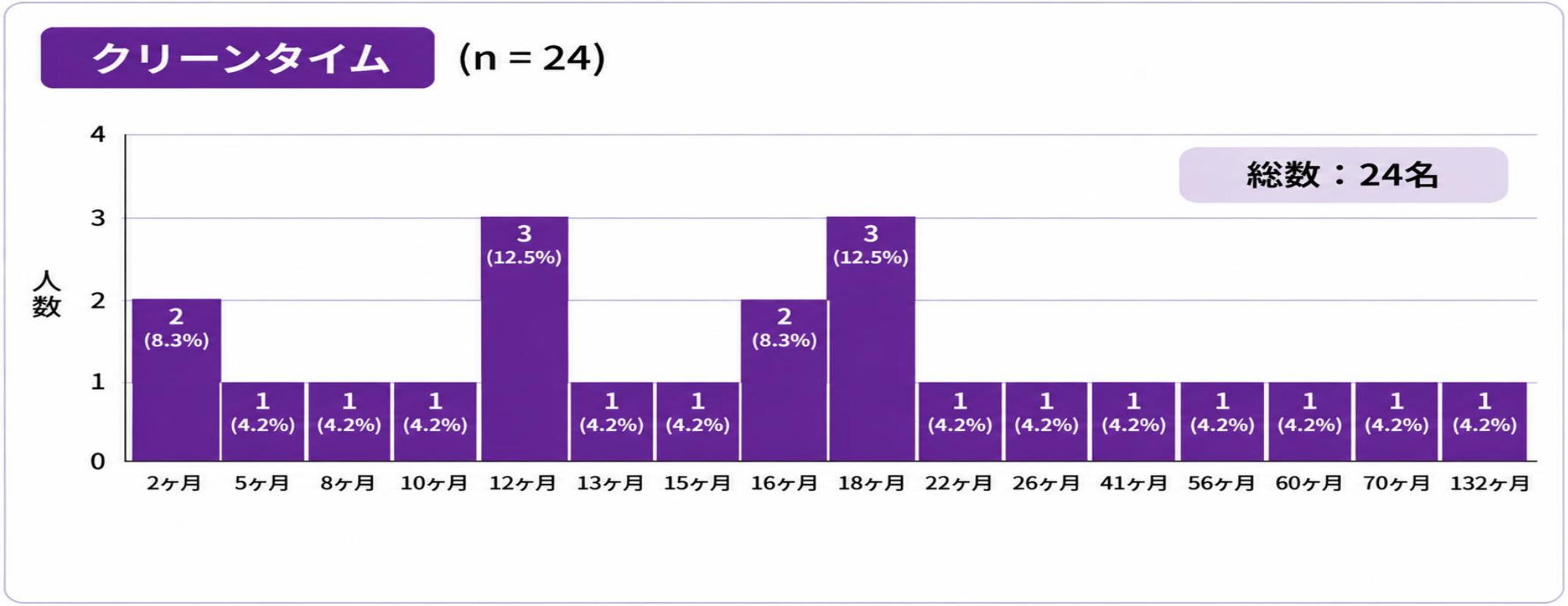
問題となっている依存対象では、アルコールが45.8%（11名）と最も多く、覚醒剤が16.7%（4名）で続いている。
ギャンブル、クレプトマニア、処方薬・市販薬なども含まれており、依存対象は多岐にわたっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳：利用期間



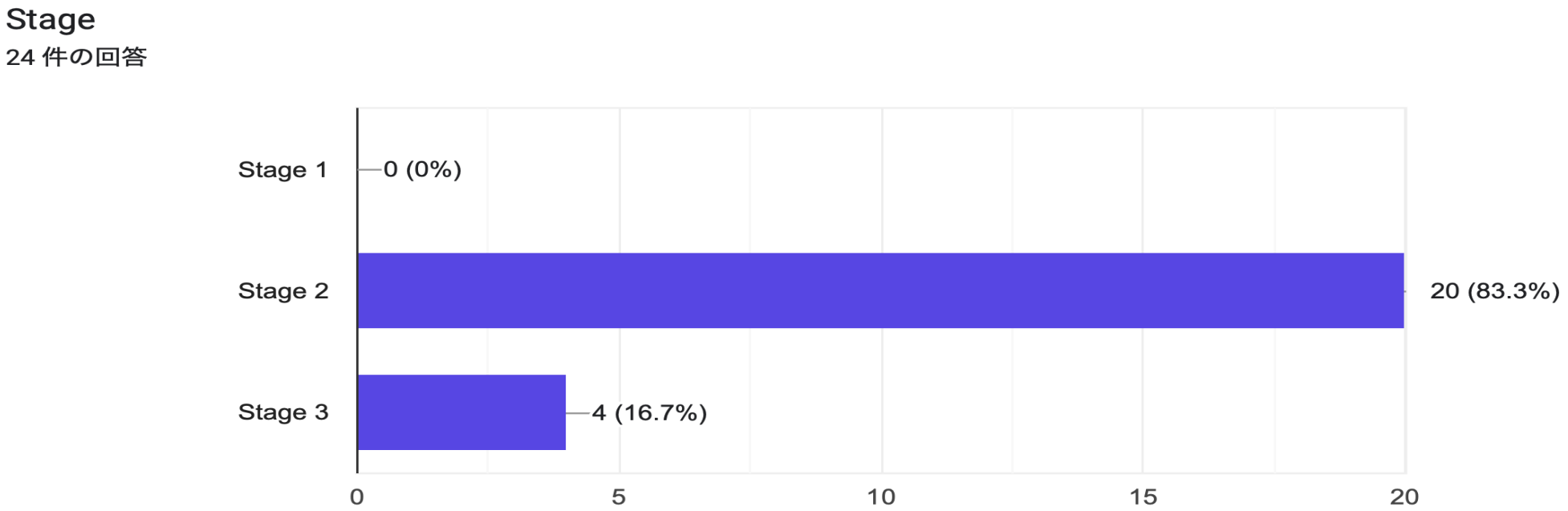
利用期間は1ヶ月から25ヶ月まで幅広く分布している。
3ヶ月が16.7%（4名）と最も多いが、短期から2年以上の利用者まで含まれており、利用期間には大きな幅がみられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳：クリーンタイム



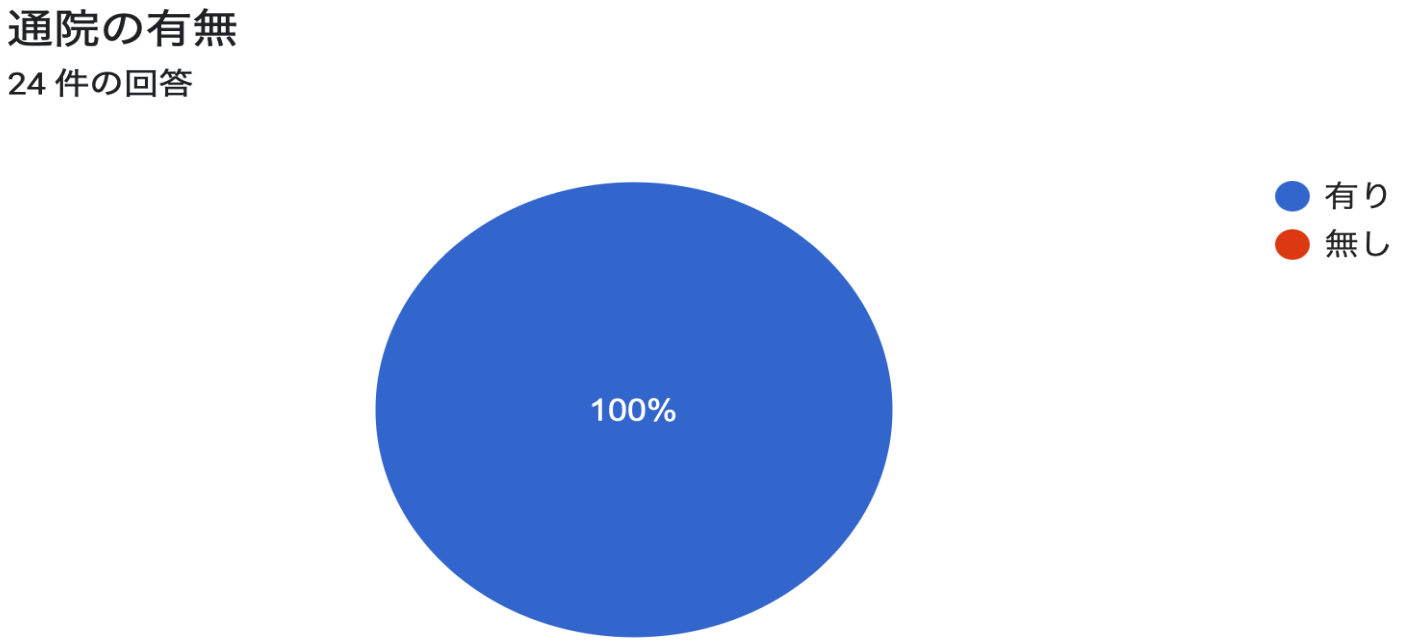
クリーンタイムは2ヶ月から132ヶ月まで幅広く分布している。
12ヶ月・18ヶ月が各12.5%（3名）と最も多く、短期から長期までさまざまな回復期間の利用者が含まれている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳



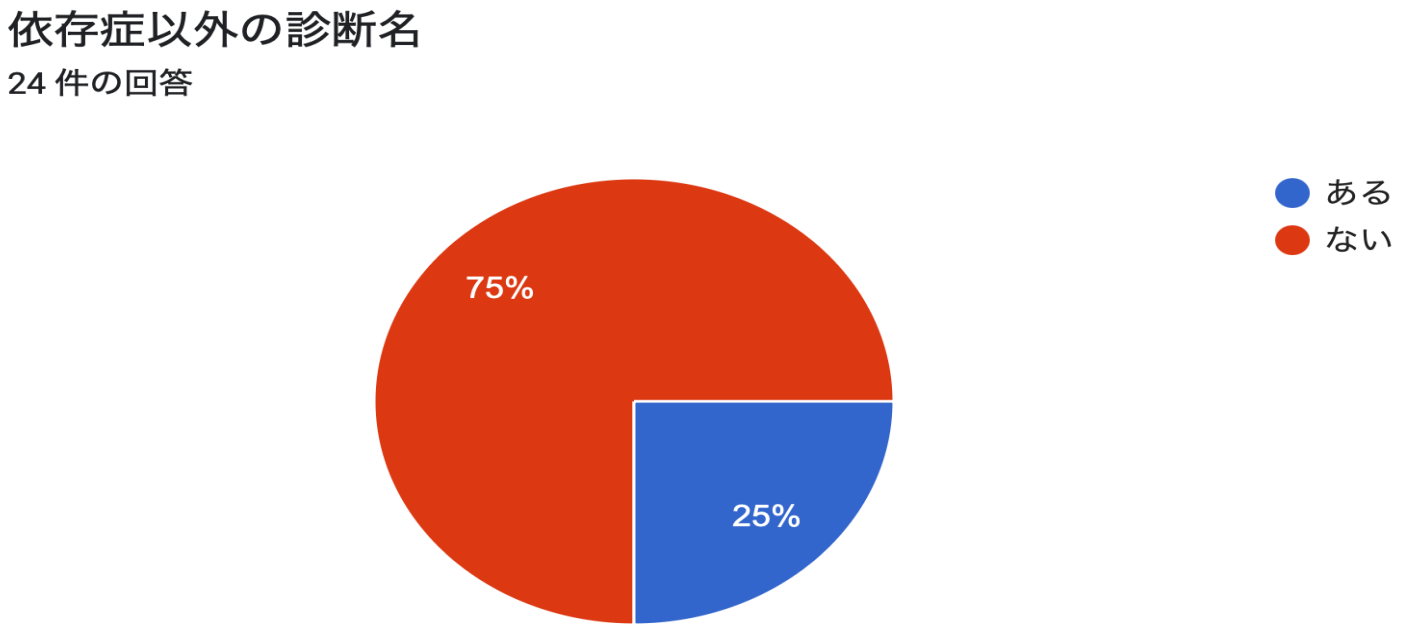
Stage 2が83.3%（20名）と大部分を占め、Stage 3は16.7%（4名）、Stage 1は0名であった。
今回の評価対象者はStage 2を中心とした構成となっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳



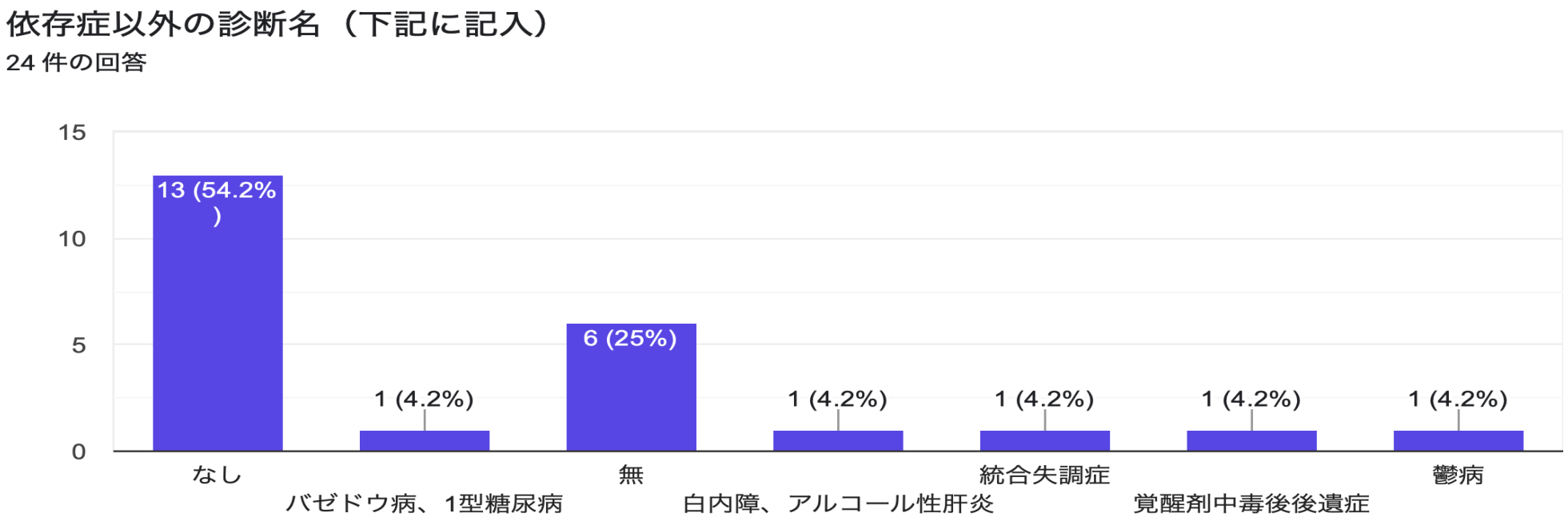
回答者24名全員が「通院あり」であり、通院率は100%であった。
今回の評価対象者全員が医療機関への通院を継続している状況が確認できる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳



依存症以外の診断が「ある」と回答した利用者は25%、「ない」は75%であった。
今回の評価対象者の4人に1人が、依存症以外の診断を有している。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
回答者の内訳

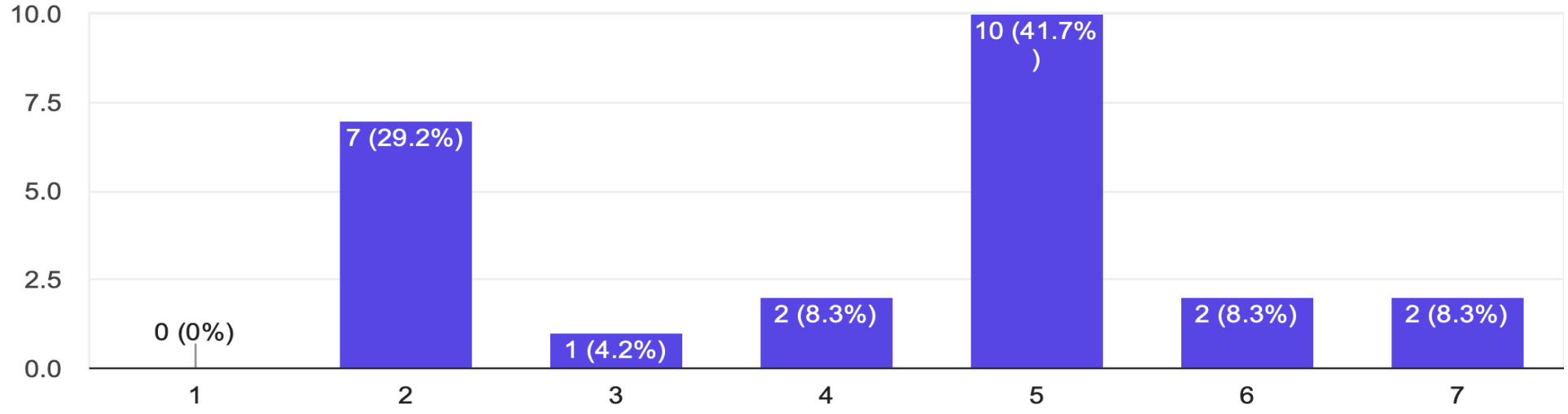


依存症以外の診断については、統合失調症、うつ病、身体疾患等が挙げられている。
依存症に加えて他の疾患を有する利用者も含まれており、個々の疾患や治療状況を踏まえた支援が求められる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目

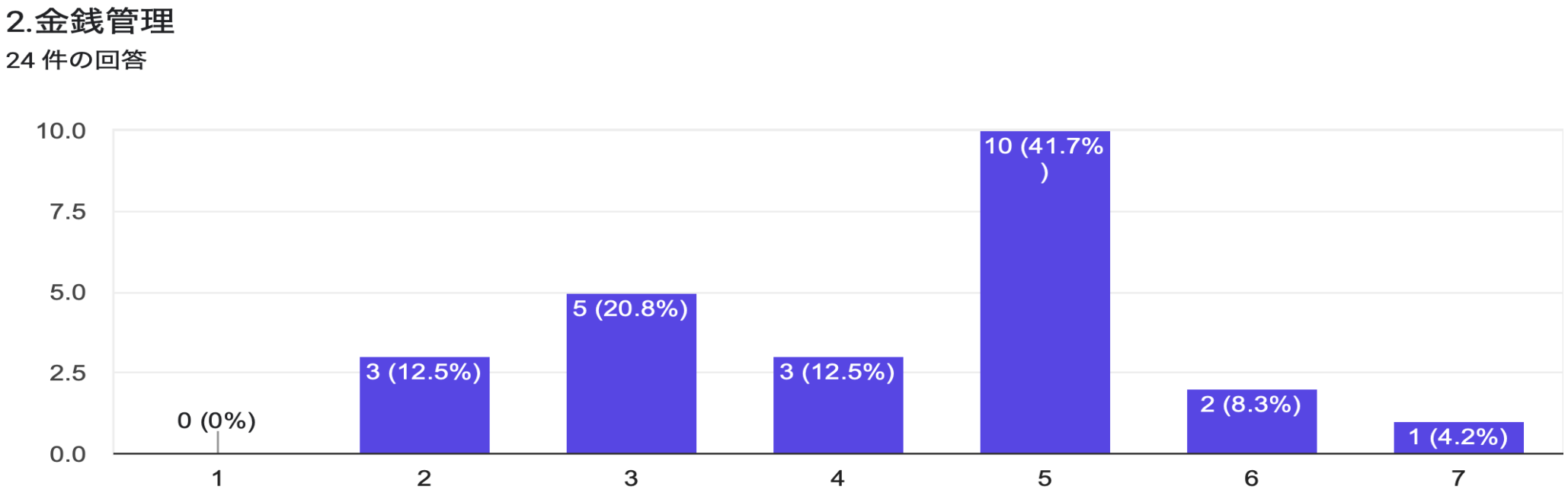
1.健康管理

24 件の回答



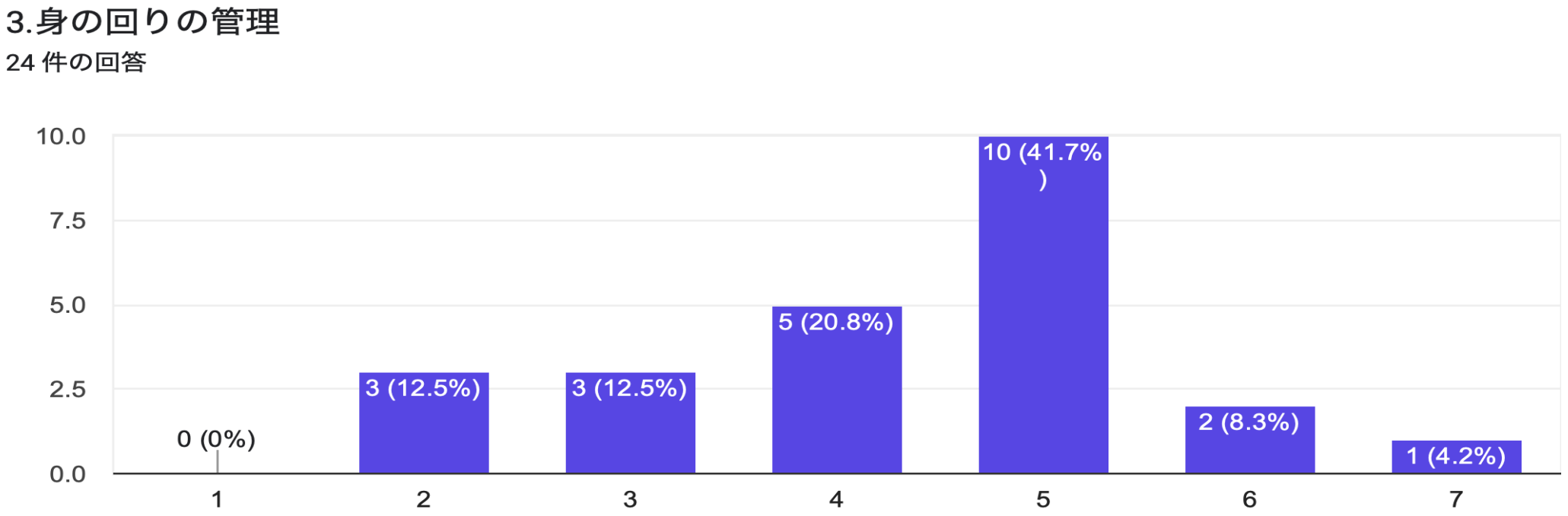
5点「見守り」が41.7%（10名）と最も多く、6点「自立」・7点「継続自立」は計16.6%であった。
一方、2～4点の利用者も41.7%を占めており、健康管理に一定の援助を必要とする利用者も多い。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



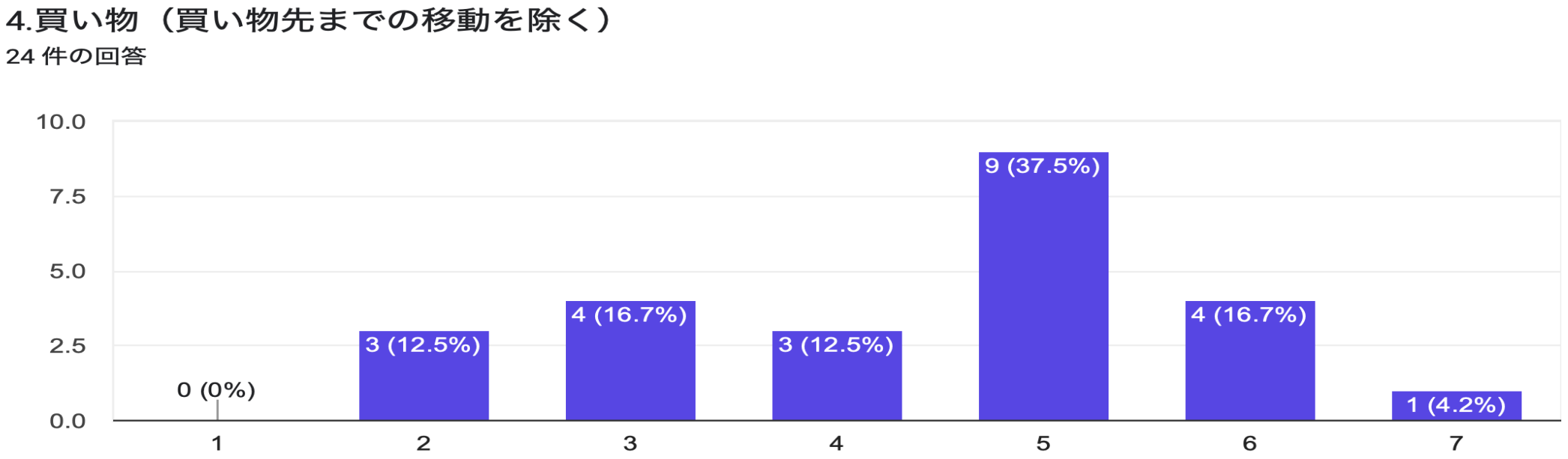
5点「見守り」が41.7%（10名）と最も多く、6点「自立」・7点「継続自立」は計12.5%であった。
2～4点は45.8%を占めており、金銭管理では見守りや具体的な援助を必要とする利用者が多い状況となっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



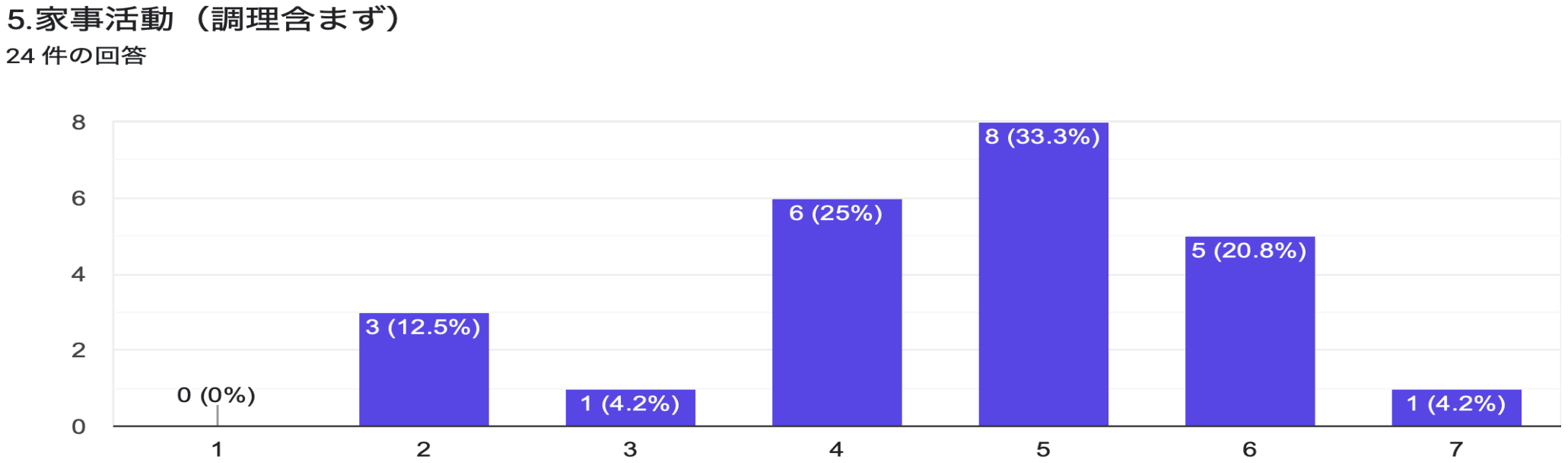
5点「見守り」が41.7%（10名）と最も多く、4点「最小援助」が20.8%（5名）で続いている。
6点「自立」・7点「継続自立」は計12.5%であり、身の回りの管理では見守りや援助を必要とする利用者が一定数みられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



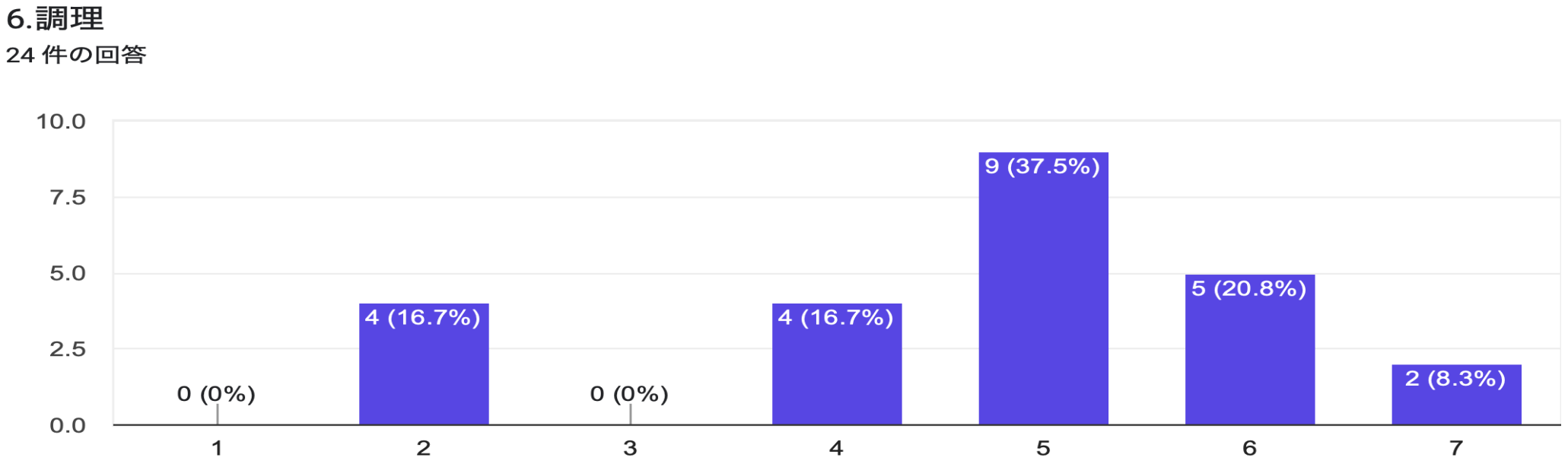
5点「見守り」が37.5%（9名）と最も多く、6点「自立」・7点「継続自立」は計20.9%であった。
一方、2～4点も41.7%を占めており、買い物については利用者ごとに必要な支援の程度に幅がみられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



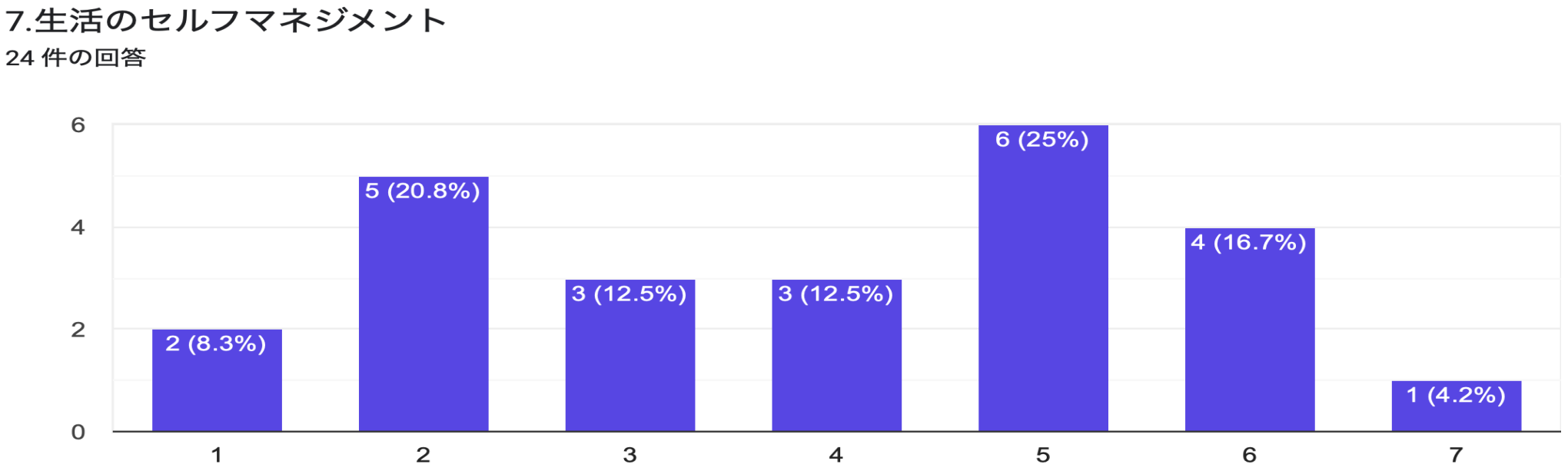
5点「見守り」が33.3%（8名）と最も多く、6点「自立」が20.8%（5名）で続いている。
4点以上が83.3%を占める一方、2～3点の利用者も16.7%みられ、個々の状況に応じた援助が必要となっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



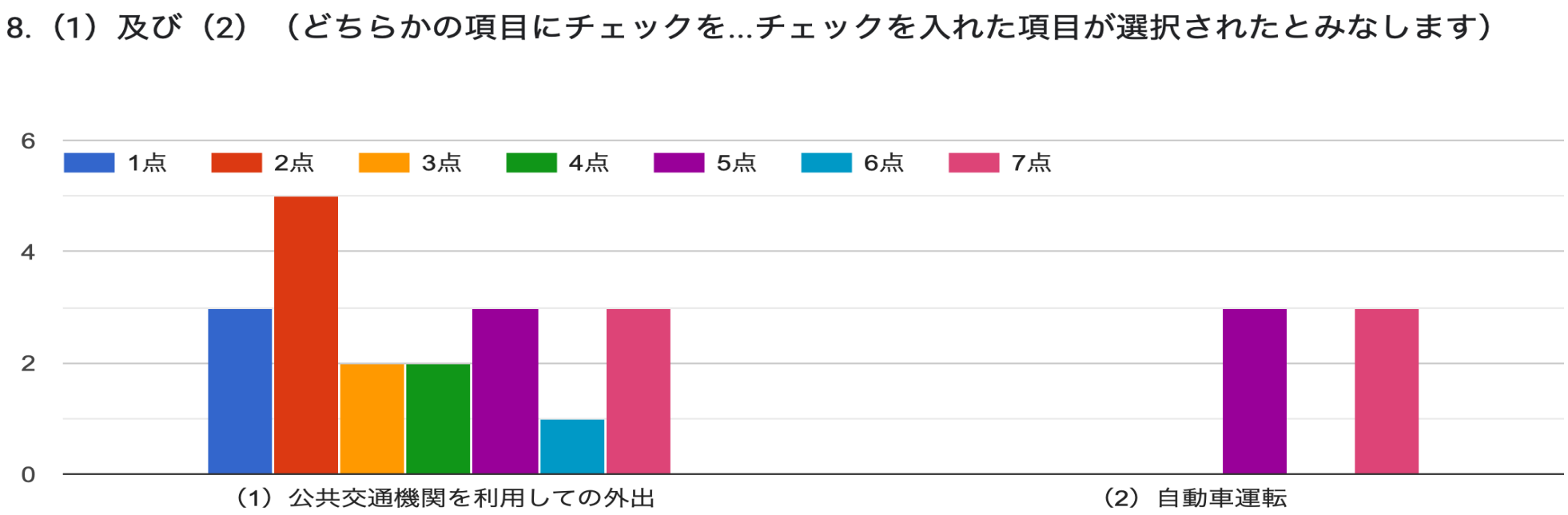
5点「見守り」が37.5%（9名）と最も多く、6点「自立」・7点「継続自立」は計29.1%であった。
4点以上が83.3%を占めている一方、2点「最大援助」の利用者も16.7%みられ、調理能力には個人差がみられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
毎日の社会生活を維持するための項目



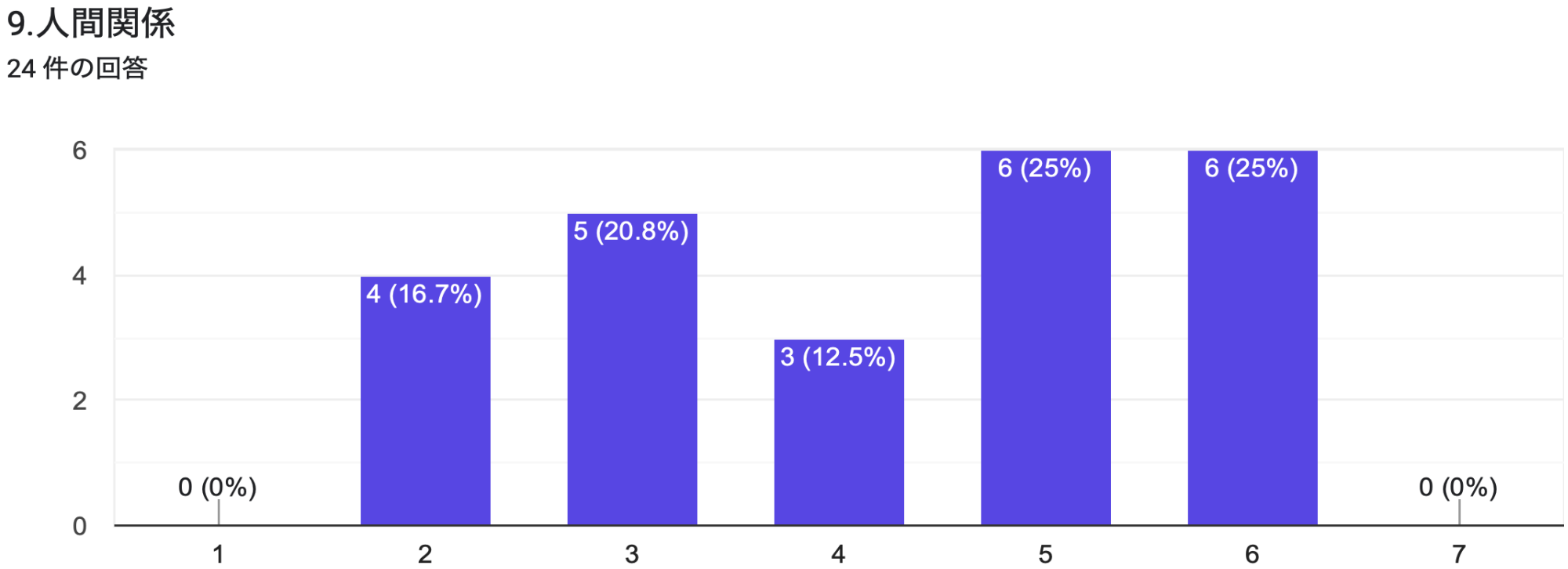
5点「見守り」が25%（6名）と最も多いが、1点から7点まで評価が広く分布している。
6点「自立」・7点「継続自立」は計20.9%であり、生活全体の自己管理については利用者間で支援必要度に大きな幅がみられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



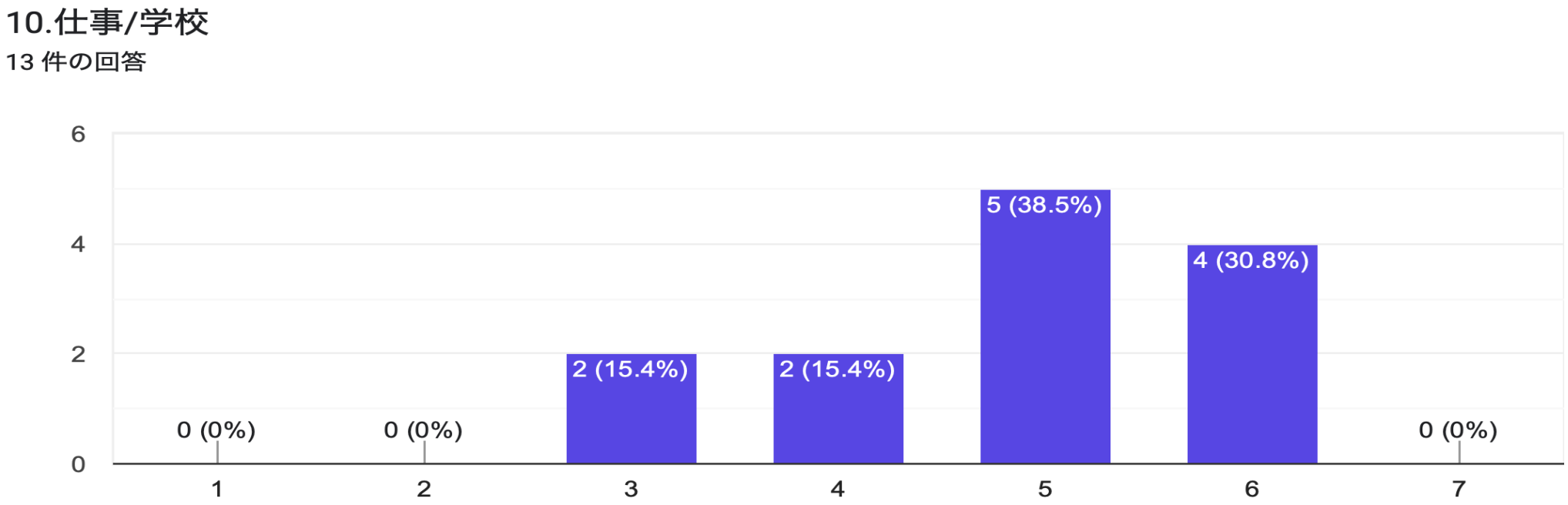
公共交通機関を利用しての外出では1点から7点まで評価が分布しており、必要な援助の程度に幅がみられる。
自動車運転を選択した利用者は6名で、5点「見守り」と7点「継続自立」が各3名となっている。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



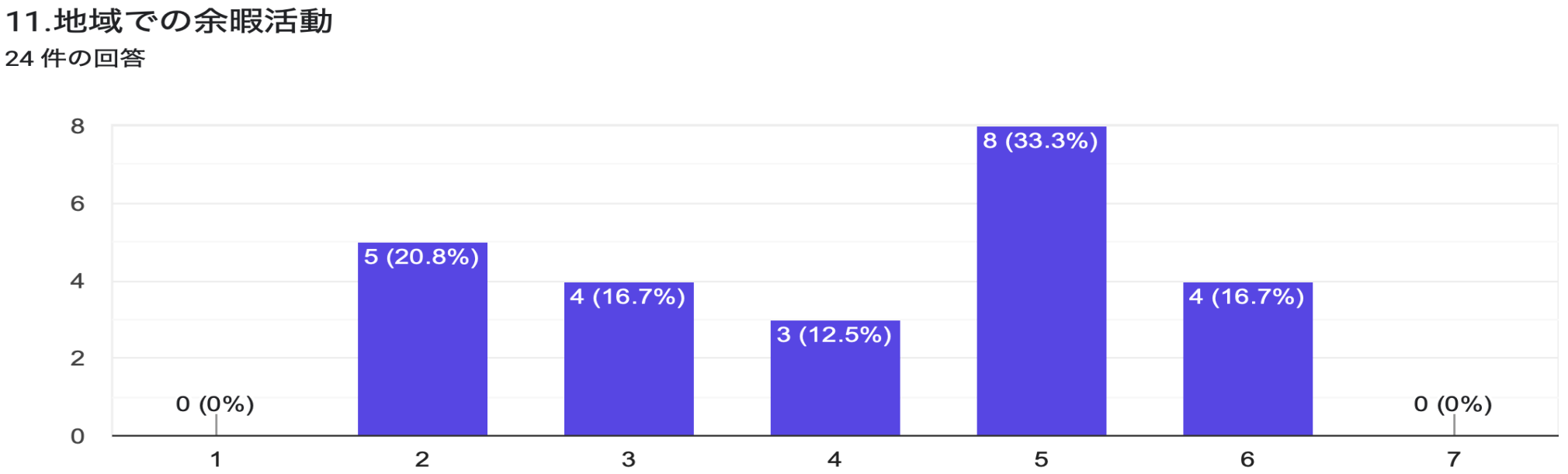
5点「見守り」と6点「自立」が各25%（6名）と最も多く、4点以上が62.5%を占めている。
一方、2～3点も37.5%みられ、人間関係の形成・維持について一定の援助を必要とする利用者もいる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



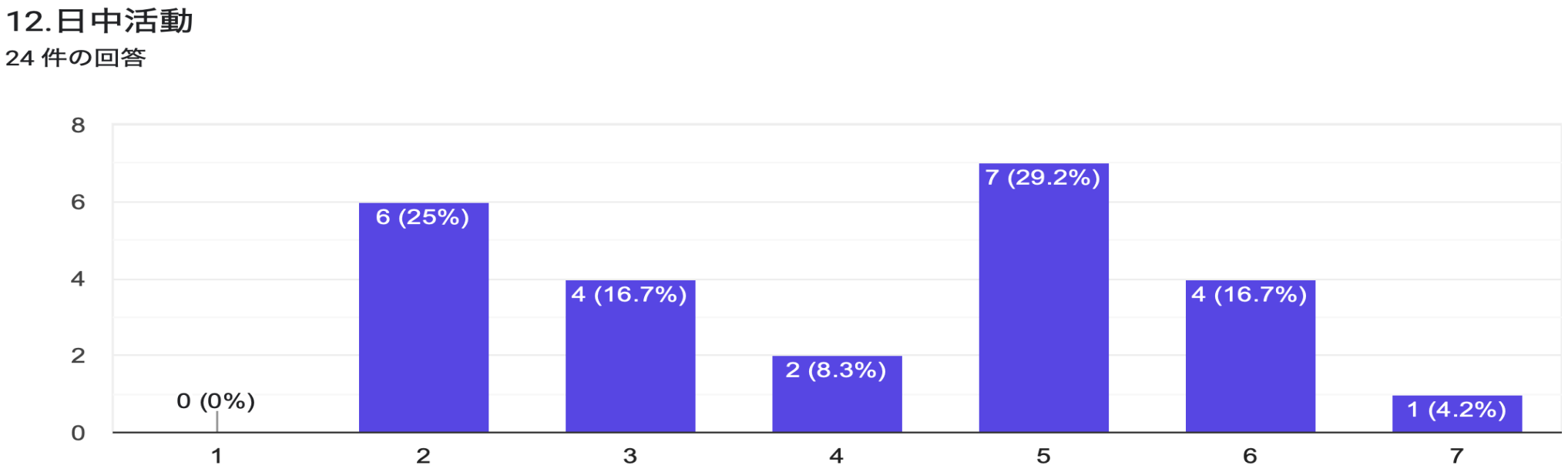
回答者13名のうち、5点「見守り」が38.5%（5名）、6点「自立」が30.8%（4名）であった。
5～6点が約7割を占める一方、3～4点の利用者も30.8%みられ、就労・就学場面で必要な支援には差がみられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



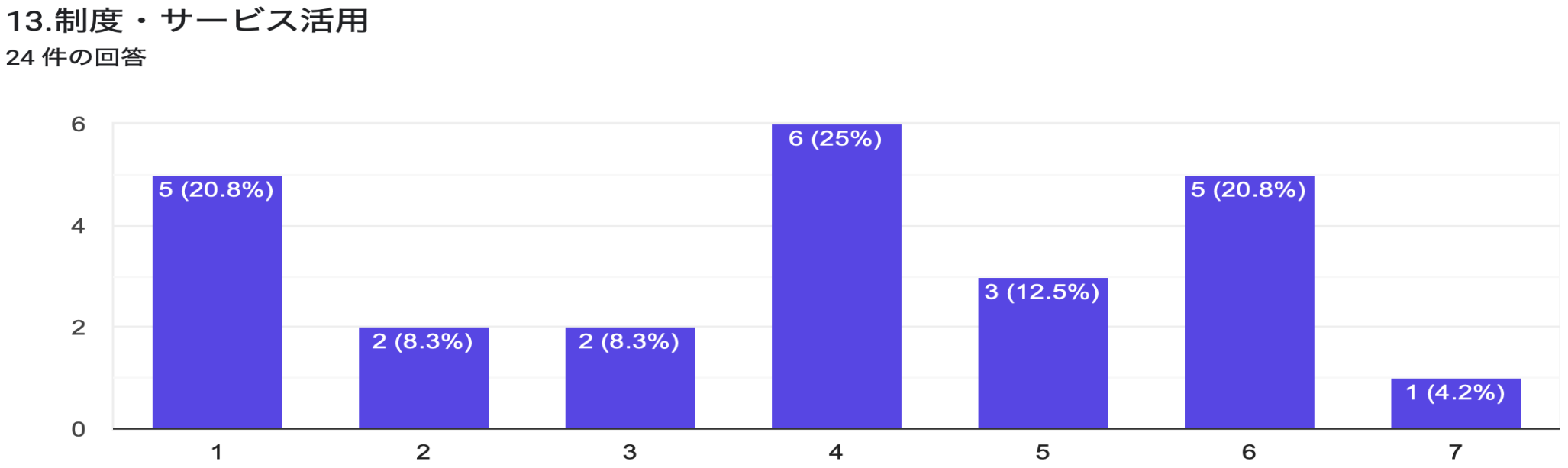
5点「見守り」が33.3%（8名）と最も多く、6点「自立」は16.7%（4名）であった。
2～4点も50%を占めており、地域で主体的に余暇活動を行うために支援を必要とする利用者が一定数みられる。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



5点「見守り」が29.2%（7名）と最も多く、6点「自立」・7点「継続自立」は計20.9%であった。
一方、2～4点が50%を占めており、安定した日中活動の継続に一定の援助を必要とする利用者も多い。

栃木DARC 自立訓練（生活訓練）利用者における
令和8年2月～令和8年7月のSIM （社会生活の自立度評価表＝Social Independence Measure）
社会の一員として積極的に参加するための項目



4点「最小援助」が25%（6名）と最も多く、1点「全面援助」と6点「自立」が各20.8%（5名）となっている。
1点から7点まで評価が広く分布しており、制度・サービスの理解や活用に必要な支援の程度には大きな個人差がみられる。